



対面朗読室のご案内

館内に点字ブロックが設置されたり、エレベーターに音声案内等があるのをご存知でしょうか？そして、車椅子に乗った方や白杖を持った方も来館されているにお気づきでしょうか。

当室では、視覚障害の方々へのサービスを中心に行ってい

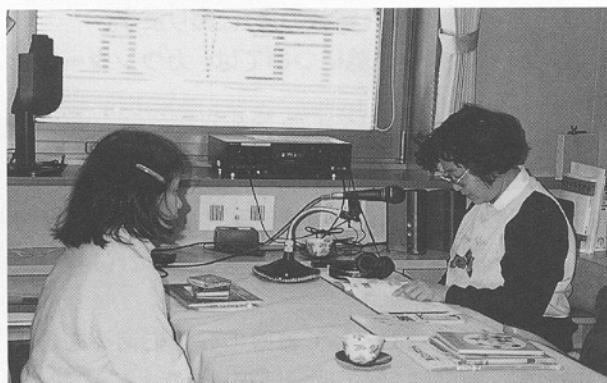
“対面朗読”って なに？

“対面朗読”という言葉を初めて聞かれた方も多いと思います。対面朗読とは、視覚に障害があり活字による読書が困難な方々に対して、希望される資料を対面形式で読むことをいいます。それは、図書館の資料をだれでもが、自由に利用できることを保障するためのサービスなのです。

当館には、そのための対面朗読室が7室と録音室が1室あります。利用時間は、図書館の開館時間と同じで平日は9~19時、土・日曜日は9~17時となっています。お一人に対して、2時間1コマを単位に、当館朗読協力者が資料をお読みします。ご希望の図書または雑誌などがあれば、希望日の2日前までにお知らせいただきます。連絡は点字でもお受けします。朗読協力者は64名、それぞれの得意の分野等によって当室で調整をいたします。協力者の方々は当館が委嘱した方々で、利用者のプライバシーを守ることを義務づけられています。

それは、夕陽丘図書館から始まりました

このようなサービスを大阪府立図書館が始めるようになったのは、全国的な流れもあったのですが、昭和49年5月に夕陽丘図書館が開館した時に遡ります。実際の業務は6月から開始しました。



(対面朗読風景)

当時の対面朗読室は2室で、現在と同じ1コマ2時間、朗読協力者や職員の朗読によってスタートしました。

初年度には登録利用者23人、協力者25人、利用回数は428回でした。その後24年経ち利用状況も変わり、平成9年度は対面朗読を22人、1620.5回利用していただきました。利用者及び朗読者の中には、その当時からの方もおられます。

このサービスは、地道に活動を続けてこられた協力者の方々によって支えられてきたといえます。

対面朗読以外のサービスについて

＜録音図書の貸出を行っています＞

直接来館出来ない方には、録音図書の貸出を行っています。ご希望の資料が当館のテープ図書（鍼灸関係中心・180タイトル）やAV室の資料にない場合には、パソコン通信<てんやく広場>や類縁機関の新着案内で所蔵状況を調べます。

なお、こうして探しても録音図書がない場合は、録音のご相談をお受けします。



(テープ図書と郵送ケース)

ここで、すこし録音図書についてのご説明をします。

1冊の本を録音するためには、例えば晴眼者の場合だと、斜め読み、とばし読みが出来るのに比べて、音訳する場合には漢字の読みなどを正確に下調べをする必要があります。

音訳のための調査の時間、また校正の時間を入れると普通に読む何倍もの時間を要します。そしてテープの長さも長くなります。統計やグラフなど、音訳のために技術を必要とするものもあります。そのため、重

複製作を避ける意味からも、どこかの図書館が録音製作を始めてないかという着手状況も調査します。

例えば、昨年話題の『失楽園』上下巻の場合などは某点字図書館製作テープでは90分テープで11巻という長さになり、『少年H』上下巻では17巻になります。



(当館所蔵テープ図書)

しかし、カセットテープの場合、このように苦労して製作された録音図書でも、テープの耐久性、情報量の問題、必要箇所がすぐに検索出来ないなどの不便さが残ります。そこでこれらを解決しようとスウェーデンの国立点字・録音図書館が中心になって、国際統一仕様の盲人用デジタル録音システムの開発、実用化が進められてきました。システムの名称は「DAISY」、このシステムを使えばCD-ROM1枚に最大53時間分(単行本5~6冊)の録音が出来るというものです。詳しくは別の機会に譲りますが、視覚障害をもつ人々にとっても徐々にですがより良い読書環境へと変わりつつあります。

<墨字図書の郵送貸出>

視覚障害の方が読まれる点字本に対して、一般の活字印刷された本を墨字図書と呼んで区別しています。自宅で家族の方などに墨字図書を読んでいただけるような場合には郵送貸出をいたします。

<墨字新着図書の情報提供>

中央図書館で受け入れた墨字図書の中から、鍼灸、社会福祉、文学を中心に選択した新着図書案内を年4回「点字版」と「録音版」で発行しています。新刊墨字図書の情報として、対面朗読の際の参考にお使いいただいている。ご希望の方には郵送しています。

<その他のサービスでは>

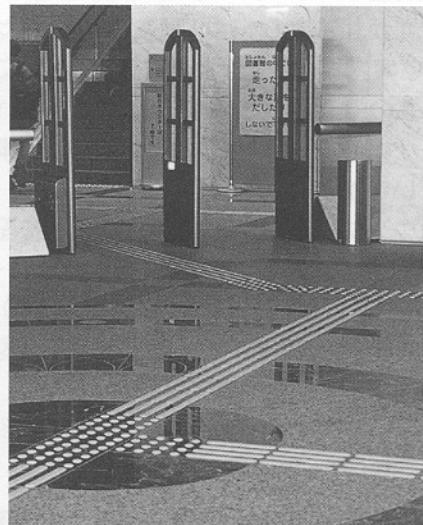
国立国会図書館学術文献録音テープの利用申し込み窓口に指定されています。

また、点字資料は『大阪府政だより』や府下の市町村の広報誌、『点字毎日』他に参考図書として『三省堂新明解国語辞典』『三省堂コンサイス英和辞典』『触知

日本地図』を用意しています。

その他には、弱視の方のために拡大読書器(20倍)を対面朗読室と各階に、「大活字本」を小説読物室に置いています。

また、当室では視覚障害の方だけでなく、心身障害で外出が困難な方に対しても図書の郵送貸出を、聴覚障害の方にはFAXによるレファレンスサービスも受け付けていますので、詳しくは、当室へお問い合わせください。



(エントランスホールの点字ブロック)

<最後に…>

当室の概要と関連の状況などを伝えましたが、皆さんの周りに視覚障害の方をはじめ、図書館の利用に障害がある方で、このようなサービスがあることをまだご存知ない方がおられましたら、どうぞこのことをお伝えください。

<お願い>

荒本駅から当館までの道路には点字ブロックが設置されています。これは視覚障害者の方にとって大切な道しるべです。途中、道路上に車や自転車が置いてある場合など、うまく通れないことがあります。

また、図書館前の東西2ヶ所の横断歩道に音声信号が設置されました。南北の横断歩道にはまだ音声信号が設置されていません。

もしも来館時に、視覚障害者の方が道に迷つておられるのに気がつかれましたら、どうぞ、声をかけてくださいるようにお願いします。